

有明海自然観察会 “エツを訪ねて有明海を学ぶ”

(2015年6月15日～17日 一回目グループ20名)

二回目グループは17日～19日に実施(19名)

エツ (カタクチイワシ科)



6月15日 (月)	新大阪9:05発のぞみ5号→11:35博多(乗換) 博多11:51つばめ323号→12:16筑後船小屋 田中先生合流・バス…①荒尾海岸(干潟) …1班さいふや旅館・2班白柳荘(泊)
6月16日 (火)	10:00②エツ漁屋形船(エツ料理の昼食)…… 13:00③下筑後川漁協・筑後大堰…… 15:00④くるめウス…1班白柳荘・2班さいふや 旅館(泊)
6月17日 (水)	9:00⑤白秋記念館・おきのはた水族館(交替) …10:15⑥川下り…12:10昼食(山田屋) …14:20太宰府15:30…16:00JR博多 博多17:04のぞみ54号…19:34新大阪

参加者

1班	大谷	大野	岡田	神谷
	瀧川	谷坂		
	岩佐	奥田	沼田	中垣
2班	岡崎	坪井	西田	東脇
	堂下	吉田	藤田	
	戸島	川上	村上	



6月15日(月)

9:05のぞみ5号で出発 (団体特別割引30%でした)



昼食は各人でお弁当か駅弁で
(久し振りの駅弁でした)



12:16筑後船小屋に到着



JR九州会社の新幹線に初めて乗りました(つばめ323号)…綺麗でした



荒尾海岸（熊本県）

荒尾漁協事務所と城柳観光バス



田中先生とバスドライバーの溝田さん



お借りした綺麗な長靴で干潟に到着



荒尾干潟

沖から岸まで最大幅3.2Km、長さ9.1Km。
国内有数規模の砂質干潟。
福岡県や佐賀県側の泥質干潟とは異なる。
2012年にラムサール条約湿地に登録された。



マジック釣り跡がそこかしこに



キレートマリンを配置し干潟改善の実験場所



キレートマリン

高純度の鉄と竹炭を混合し
キレート材やセメントを加えて
固めたもの（下は練炭型）



シオフキが沢山採れる。（美味しいらしい）



バックに薄っすらと雲仙岳が見える



シオフキ（左）とアサリ（右）・・・似ているが模様が異なる



アサリを持って帰ったが
数個以外は空身

アサリやシオフキ（バカガイ科）の説明を聞く



マジャク釣り

マジャクはアナジャコの事で、ヤドカリの仲間。
深さ1～2mのY字型の穴に住む。巣穴を守る性質が強く、侵入者を追い返そうとする。
一般的には毛筆を穴に入れて釣り上げるが、おとりを使った友釣りの方が早く釣れる。
釣り体験・・・¥1500らしいがインストラクターが必要との事。体験は断念。



①貝殻等が溜っている所の表層を削る。



②多数の穴が現れる。



お尻に椅子を縛り付けている



③友釣り用のマジャクを穴へ



④おとりマジャクの様子を見て毛筆と入れ替える。
筆を微妙に動かしてマジャクが毛筆を咥える
タイミングで両手で掴み取る。



大漁！



さいふや旅館

NPO法人SPERA森里海・時代を拓く
の拠点の宿。代表：内山里美さん

さいふや名物夕食

「有明海づくし」



夕食(15日：一班)



夕食(16日：二班)



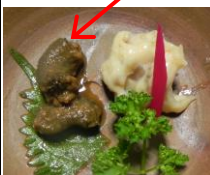
ムツゴロウの甘露煮



エツの刺身



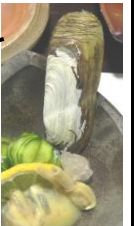
イソギンチャク



ワラスボ



アゲマキ



「くつぞこ」(舌平目)の煮付



ウナギの柳川鍋



味噌汁の具：ワラスボ



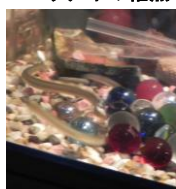
マスコット



懇親会(喫茶室で)



ウナギの稚魚



岩佐さん(左：一班)とマスター内山耕蔵さん



田中先生・古賀さん・奥田さん



6月16日(火)

エジソン似のご主人と女将さん(内山里美さん)

内山ご夫妻と一班

アイドルの猫ちゃん(8匹とか)



コーヒーの薫る朝のひと時・・・「猫喫茶」で

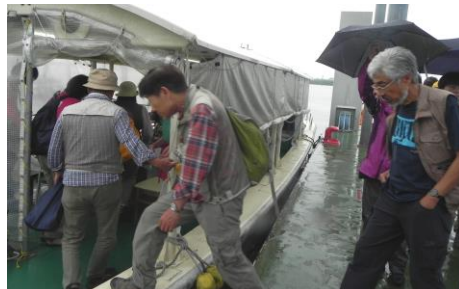


お世話になりました。
ありがとうございました

太宰府→幸府・・・昭和初期のルルシア漂う宿



エツ漁屋形船
(船)キハラさん



椅子席で21人(弁当を目の前にして)



大川市観光ボランティアガイドの三宅さん



船頭の木原さん



(重文)筑後川昇開橋(国鉄佐賀線)・・・通常は上がっている。



我々のエツ漁舟

屋形船の横で刺し網を引いてくれる

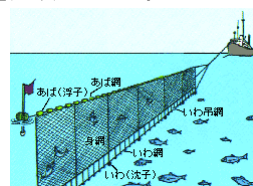


エツが掛っている！



流し刺し網漁

泳ぐ場所を遮断するように網を張り、編み目に魚の頭を入り込ませる。

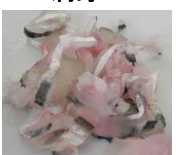


獲れたエツ

卵(白子)



刺身



屋形船上でエツを裁く



エツづくし弁当(エツ料理専門の三川屋さん)



頂きまーす！ (アルコールの無いのがね・・・)



昇開橋の昇降を予約していた。お父さん、ご苦労さんです。(5分)



宝島

鳥居に向かって祈ると宝くじが当たる。



三川屋さんの若女将(左)



エツ種苗生産現場
下筑後川漁業協同組合

H10年に仔魚飼育に成功。H26年は16～20万匹を放流(体長4cm)。塩分0.14%、エサの管理が最重要



魚霊碑



情熱の塚本中間育成センター長(御年75歳)



「エツ伝説」の紙芝居で普及教育



エツの種苗生産現場の説明をされる塚本さん。熱がこもる。



屋外ではオイカワの育成も実施していた。



エツの稚魚の数量は、スポイドで引いてカウントするとの事



塚本さん・田中先生と共に(下筑後川漁協事務所前で)



エサのワムシ・アルテミアの水槽 (細心の注意が必要)



筑後大堰

管理事務所

昭和60年に完成。可動堰・堤高6.4m・総延長501m
福岡市の水道水の1/3。川を堰き止めた影響が有明海問題の一つ。



くるめウス（筑後川防災施設）



NPO筑後川流域連携倶楽部
駄田井理事長 川嶋さん



昭和28年の大水害のDVDを観る



ハウス内の水族館「筑後川の仲間たち」



「くるめウス」
ニッポンバラタナゴの俗名
1900年の初めに久留米市の筑後川
で採れたので付けられた名前



高良川のコンクリート護岸を一部に戻し
た。以前の姿を取り戻している。



巨大クスノキ（樹齢200年以上）
昭和28年の水害で流されてきた



白柳荘

二班:15日、一班:16日に宿泊



立派な庭園(真勝寺の森を借景に)



一班の夕食風景・・・乾杯、ご苦労さん



夕食（他に天ぷら・ウナギのセイロ蒸しなどがあり）



舌平目の煮付



朝食



二班の朝食風景



6月17日(水)

9:00 御花の駐車場へ
御花(おはな)・・・旧柳川藩主立花氏の別邸



沖端水天宮→水族館



おきのはた水族館
近藤さんが私財を投じて設立
(有明海の生物・漁具を展示)



近藤潤三さん(御年85歳)
(元柳川魚市場の会長)



エイリアンこと「ワラスポ」
有明海のみに生息するハゼ科の魚



立って泳いでいた



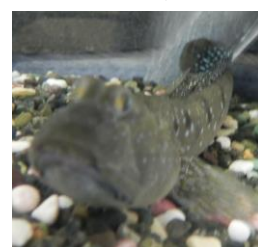
漁具の説明 (約100種を展示)



潜水服(使えるけれど獲物なし)



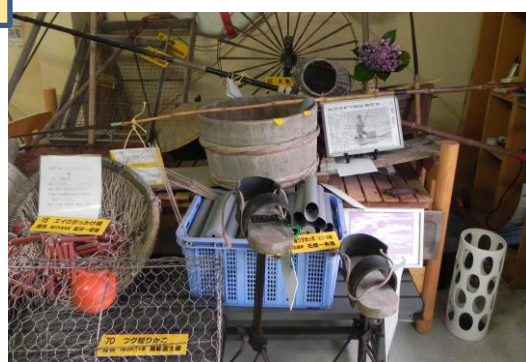
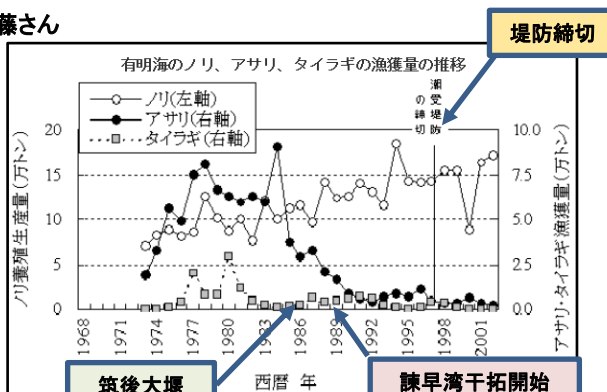
ムツゴロウ



トビハゼ



有明海漁獲量の推移の説明をする近藤さん
(ノリ生産量の右肩上がりは何故?)



北原白秋の生家・記念館

生家は柳川藩御用達の海産物問屋。19歳で上京(早稲田大学)

北原白秋記念館・・・撮影禁止



5 日吉神社



うなぎ供養碑



1 古賀船頭(有明海復活再生の会代表)・・・名調子でした



6 田中吉政像



くもで網



9 柳川城址
今は柳川高校の一隅にある



2 柳川城堀水門



白秋道路



柳川掘割川下り
水郷柳川観光株 (60分・¥1500円)



柳川はカッパ王国である



“待ちぼうけ”の碑



3 並倉・鶴味噌醸造社の麹室



7 壇一雄文学碑



若い船頭さん



4 花島菖蒲園



奥田船頭・危うく落下危機



8 川下り終点の御花(旧柳川藩主立花氏別邸)



8

ルートに11か所の橋があり、背を屈めて通る



昼食：“ウナギのセイロ蒸し”

先生より柳川名物のウナギを賞味するように提案を受けた。
室内に花菖蒲庭園



頂きま〜す！

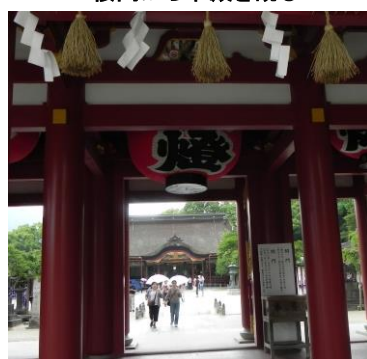
とろけるような柔らかいセイロ蒸しでした。これが食べられない日がないように。



太宰府天満宮

楼門から本殿を観る

太鼓橋・心字池で



国指定天然記念物の大楠（樹齢1500年）
境内に国指定1本、県指定49本の楠がある



飛梅（都から一夜で飛んできた）



参道・・・予想を超える立派な参道



ご苦労さんでした
(JR博多駅で解散)



平成 27 年度第 2 回観察会 記録

日 時	第 1 回目グループ 平成 2 7 年 6 月 1 5 日（月）～1 7 日（水） 第 2 回目グループ 平成 2 7 年 6 月 1 7 日（水）～1 9 日（金）
観 察 地	有明海
講 師	田中 克先生 他
テ ー マ	有明海に森里海連環を見る
備 考	参加者数 1G=20 名（内スタッフ 2 名）、2G=19 名（内スタッフ 2 名） 記録 中垣 尚治

時々雨がふり、梅雨らしい 3 日間でしたが、それほど影響はありませんでした。
全員体長不調もなく、満足、満足の観察会であったと喜ばれていました。
田中先生の原点である、有明海の実情を、改めて知ったように思います。

川の堰き止め、無制限の砂利採取、諫早湾のギロチン堰など、物理的問題は大きいですが、
最大の課題が「海苔業界」と「魚や貝の漁協」との越えるに越えられない確執であることを、
行く先々で感じた次第です。

田中先生の定宿の「さいふや」旅館での有明海づくしの料理、屋形船でのエツづくしの弁当、
ウナギのセイロ蒸しなど、グルメの旅でもありました。
逆にいえば、このような食べ物が常に食べられていた、普通の有明海に戻そうという活動を体
験してきました。

田中先生のご指導、及び参加いただいた皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

以上